

ふるさとを語る

日本の縮図と言われる兵庫県は、
多彩な人材を輩出しています。
今回は、読売ジャイアンツ
翁田 大勢さんにお話を伺いました。

プロ野球選手／多可町ふるさと親善大使

おう た たい せい

翁田 大勢さん



©YOMIURI GIANTS

プロフィール

1999年、多可町生まれ
小学校で八千代少年野球クラブ、中学校では氷上ボーイズに所属。
兵庫県立西脇工業高校、関西国際大学卒業
2021年、ドラフト会議で読売ジャイアンツから1位指名
2022年、ルーキーの歴代最多記録に並ぶ37セーブをマークし、新人王を獲得
2023年、3月に行われた第5回ワールドベースボールクラシック(WBC)では中継ぎ・セーブとして登板し、侍ジャパン14年ぶりの世界一に貢献

■子どもの頃の思い出

子どもの頃は、「ネイチャーパークかさがた」にある川に入ってよく遊びました。多可町は自然豊かで見晴らしも良く、シカやイノシシなど色んな野生動物が見られます。「クマが出ました」という放送も聞いたことがありますね。

夏休みになると友だちと夏祭りに行ったり、小学校の自然学校で淡路島に数日間泊まって地引き網漁を体験したことも楽しかった思い出です。

家では、お父さんやお兄ちゃんが野球をしていたので、よく見に行っていた

ました。その影響で、自分も小学一年生から野球を始め、その頃からプロ野球選手になりたいと思っていました。

■成長して、プロの世界へ

高校では、体ができていなかったこともあり、野球より体づくりに多くの時間を費やし、野球選手としての土台を作りました。

大学では、コロナで全体練習ができない時は、個人でできる練習時間を増やしました。ケガをした時も、「どうしてケガをしたのか」を自分の中でしっかり見つめ直し、「どんな状況で

も、上手くできるまでやる」という信念を持ち続けていたので、メンタルを崩すことはありませんでした。

これまで、家族やチームメイト、指導者の方、トレーナーさんなど、色んな方にお世話になりながら、成長できたと感じています。

そしてジャイアンツからドラフト一位で指名された時は、驚きとともに、とても嬉しかったです。

■読売ジャイアンツに入団

東京に出て来た時は、「兵庫から意外と近いな、人が多いな」と感じまし

たね。また、坂本勇人さんや丸佳浩さんなど、テレビで見ると一緒に野球をするのが不思議な感覚で、この人たちみたいにジャイアンツを背負って立つような選手になりたいと感じながら過ごしていました。

ジャイアンツに入団して一番印象に残っていることは、開幕戦のセーブシチュエーションで登板し、抑えることができたことです。これを機に抑え投手として波に乗って行けたので、この試合は重要でした。ただ、「自分はプロで通用する」というようなことは、本当に思ったことがなく、「毎試合しっかり準備して、いいマインドで投



©YOMIURI GIANTS

り方も好きですが、海外もいいな
と思いました。

WBCで一番思い出に残る場面
は、やはり決勝でのアメリカ戦で
すね。僕が抑えたら、ダルビツ
シユさんと大谷翔平さんが投げる
と言われていて、皆さんが絶対に
見たいシチュエーションだと思っ
たので、全力で抑えました。

トラウト選手やゴールドシュ
ミット選手などと対戦しましたが、
トラウト選手はそれと分かったも
の、他の選手は実際のところよ
く分からなくて、「本当に大きい
な」という印象だけでした。後か
ら調べて「すごい人だったんだ」
ということが分かったような状況でし
た。

■WBCで世界一に貢献

WBC決勝ラウンドは、アメリカで
行われたのですが、海外の盛り上がり
方は本当に凄かったです。日本では相
手が攻撃している時、守っている方は
なかなか応援できませんが、海外では
攻守に関係なく、「盛り上がりたい人
が盛り上がり、応援したい人が応援
する」という雰囲気。舞台の違いを強
く感じました。僕は、日本の盛り上が

■ふるさとへの思い

多可町は、空気も澄んでいて、心が
疲れた時はマイナスイオンを吸って、
鳥のさえずりを聞いていると、とても
落ち着きますね。

そんな多可町の人たちは、調子がいい
時も悪い時も本当に1年を通して応
援してくださっていたので、自分が力
になれることがあれば力になりたいと
思って「ふるさと親善大使」になりま

した。

東京に来てからも地元には機会があ
れば帰っています。この前も「ガルト
ン八千代」での幼なじみの結婚式に出
席しました。他にも、神戸にある行列
のできるハンバーガー屋さんに友だち
とよく行きますね。



©多可町役場(2022年撮影)

■多くの方々に勇気付けられて、 次のシーズンへ

以前、ケガから復帰してマウンドに
上がった時、東京ドームに応援に来て
くださっているファンの皆さんが、本
当に大きい声援や拍手で迎えてくださ
いました。地元のみならずLINEで
「待ってたよ」といったメッセージを
送ってくれました。プロのアスリート
は多くの人に感動を与えることができ
る本当に素敵な仕事だと思っておりますが、
多くの方々に勇気付けられた印象的な

出来事でした。

プロ2年目のシーズンでは、つまず
く場面も多くあったので、自分自身が
もっともっと成長しなければと思っ
ています。

これから複数年続けて活躍するため
には、自分自身が試行錯誤しながら粘
り強く、もっと努力し続けていくしか
ないと思っています。次のシーズンに
向けて、自分がどう入っていくか、ど
う変わった自分を見せていけるかとい
うことを思索しています。

■県人会の皆さまへ

ジャイアンツには、兵庫県出身の坂
本勇人さんや山崎伊織さん、平内龍太
さん、岸田行倫さんなど多くの方がお
られ、兵庫県出身の方が活躍されたら、
僕自身もとても嬉しい。

僕も、兵庫県の方々にそう思っても
らえるように頑張りたいと思います。

